

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立日吉幼稚園

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 高層マンションが増え、地域行事も活気がある。地域コミュニティとの連携、広い場でのびのびと遊ぶ機会の減少、いろいろな人とふれあう機会の減少など、子育ての課題も多い。入園する子どもが減り、幼稚園の良いところの発信の仕方を考えていかなければならない。幼稚園では園庭を走ったりいろいろな遊びに挑戦したりする姿が見られている。学年を超え、いろいろな友達と心を通わせ、日々の生活や遊びを充実できるようにする。
- 地域との関係が深く、家庭も地域も子どもたちを大切に見守り、幼稚園と共に子育てに取り組んでいる。子どもたちが幼稚園に親しみ、自園や地域の愛着をより深めていく保育実践を目指す。
- 大阪市就学前教育カリキュラムにおける「知」（聞く、話す、数量、図形、空間認識など）や「徳」（思いやりの心、社会生活のルールを守る心、命の大切さを感じる心など）、「体」（運動、基本的な生活習慣など）を育てる日々の実践を保護者に分かりやすく発信し、成長や子育ての喜びを共有していくことが必要と考える。幼稚園の教育内容の発信には更なるHPの活用と、教職員から一人ひとりの成長をていねいに伝える機会の充実を目指す。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「保護者も子どもも交通安全への意識が育った」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「自分の思いを出しているか」「友達の良いところを見つけているか」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「遊びを通して、学びの芽が培われる園生活を送れている」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「子どもは、体を動かして遊ぶことが年度当初と比べて好きになった」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「友達と遊ぶことが楽しいと感じ、友達を大切に作る気持ちが育った」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「子どもは、年度当初と比べて基本的な生活習慣が身についた」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の本園のアンケート調査で、「幼稚園は、家庭教育と子育て支援や、幼稚園教育の発信を行っていた」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「保護者も子どもも交通安全への意識が育った」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「自分の思いを出しているか」「友達の良いところを見つけているか」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「遊びを通して、学びの芽が培われる園生活を送れている」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「子どもは、体を動かして遊ぶことが年度当初と比べて好きになった」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「友達と遊ぶことが楽しいと感じ、友達を大切に作る気持ちが育った」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「子どもは、年度当初と比べて基本的な生活習慣が身についた」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「自分の住んでいる地域を知ったり、地域の行事に参加したりした」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。
- 令和7年度末の本園のアンケート調査で「幼稚園は、家庭教育と子育て支援や、幼稚園教育の発信を行っていた」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・本年度の幼稚園運営では、子どもの実態を丁寧に捉え、教職員で話し合いを重ねながら各目標に向けて取り組んでいった。
- ・子どもが遊びの中で様々な学びの芽が培われるよう、教職員で話し合いながら保育の充実に努めた。そして、幼稚園の保育内容について、園内での子どもの様子を掲示したり、ホームページを活用したりし、保護者や未就園児の保護者、地域の方に伝わるようにしてきた。保護者の方は幼稚園教育に安心をもっていただき、未就園児の保護者の方は未就園児活動（くまクラブ）に何度も参加され、幼稚園に親しんでいただいた。
- ・様々な地域の方との交流をもつことで、自分が地域の一員であることを知り、見守られている安心感につながっている。特に、小学校との交流では、先生や小学生の優しさに触れ、就学への期待が高まった。
- ・保護者アンケートの結果では、項目の中では、「そう思う」が単独で目標に満たないものもあったが、どの項目も肯定的回答が90%を超えていることから、概ね理解していただいていることが感じられる。
- ・子どもが成長できるように教職員全員で取り組み、地域と連携しながら園生活の充実に取り組んでいきたい。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
学校園の年度目標 【安全・安心な教育の推進】 ○令和7年度末の本園のアンケート調査で「保護者も子どもも交通安全への意識が育った」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。 ○令和7年度末の本園のアンケート調査で「自分の思いを出しているか」「友達の良いところを見つけているか」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 ・安全に対する意識や習慣が身につくようにする。	B
指標 ・降園指導を月に1回、アンケート調査を学期に1回実施し、保護者や子どもの実態や課題を把握し、それぞれに応じた交通ルールを確認する機会をもつ。 ・年に2回以上関係機関と連携し、安全指導を実施する。	
取組内容②【2 豊かな心の育成】 ・一人一人が安心して自分の良さを発揮できる保育に取り組む。	B
指標 ・月1回以上幼児の実態を共有し、教師の意図をもった働きかけや環境について検討する。 ・週1回、発達段階に応じて、子ども同士が互いの良さを見つける機会をもつために、各クラスや全体の場を利用して振り返り活動を実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① ・月1回降園指導を実施し、交通ルールやマナーに対する意識がもてるよう毎月の目標に従い、発達に応じて絵や表示等を利用しながら分かりやすく伝えた。教師が目標を示した表示を持ちながら指導ポイントに立つことで、具体的に注意喚起することができ、しっかり意識できている部分を認めていくこともできた。また、実態把握にもつながっている。特に、年度後半になると、通用門で一旦止まること、保護者と手をつないで出ることが守れていない実態があった。3学期に入り再確認をしたり、子ども自身が意識できるように「止まれ」「てをつなごう」の表示を門前に置くなどすることにより、子どもから一旦止まってお家の方と手をつなごうとする姿につながった。降園時に指導を行うことで、保護者、幼児ともに安全に対して意識する機会となっている。 ・降園指導の様子を園だよりで知らせたり、毎月の目標を1か月間、通用門に掲示したりすることで、持続的な安全に対する意識や習慣が身につくようである。

・PTA 地域交通安全委員会の方が登降園時に自転車駐輪の場所に立ち、駐輪の仕方の啓発や安全に気をつけるように声をかけ、見守ってくださった。保護者もマナーを守って駐輪や幼児の乗り降りを行っているが、定着した安全意識につなげるためには課題もある。

・7月、12月に交通安全に関するアンケート調査を行い、交通安全に対する意識を捉えることができた。7月アンケート調査の結果から自転車乗車時の保護者のヘルメット着用率が低いことが分かったので2学期の降園指導では、安全な自転車の乗り方を確認するとともに、ヘルメットの着用を促す啓発を降園指導で行った。また、アンケート結果を西警察署と共有したことにより、1学期末の西警察署による交通安全指導において実態に基づいた話をしてくださり、より交通安全の啓発につながった。12月のアンケート調査では、令和8年4月より自転車の交通ルールに「交通反則通告制度(青切符)」が導入されることから、詳しい内容を知りたいという保護者からの意見が挙がっていた。今までの交通ルールや自転車乗車時のマナー等の指導に合わせて来年度に指導する予定である。

・3学期には西区役所地域支援課「にしーパトロール隊」の方々に、声掛け事案についての指導を行っていただき、安全・安心に過ごすことについて学ぶことができた。

・以上の取組により、本園の保護者アンケート「保護者も子どもも交通安全への意識が育った」という項目において、「そう思う」と回答した保護者は72%だったが、「そう思う」と「だいたいそう思う」を合わせると100%となったため、達成状況はBとする。

取組内容②

・保育後、教職員皆がその都度幼児の実態や姿について振り返りをする場をもった。そして、幼児の姿や発達、今後の保育の見通しに合わせた環境構成や援助について検討した。学年を超えた園全体の環境、一人一人に応じた環境を検討し、保育に取り入れた。

・毎日の保育の中で、降園時を利用して一日の保育の振り返りを行い、活動の後に、楽しかったこと、困ったこと、嬉しかったこと等、伝えられる環境を用意している。3歳児では、気持ちを言葉にすることが難しい子も教師と一緒に自分の思いを言葉にして伝えることで安心して表すことができるようになってきている。気持ちを代弁して皆の前で話す援助をしている。4歳児では、帰りの会の際に嬉しかったこと、楽しかったことの発表を当番制や挙手制で行い、一人一人が感じたことを言葉にする機会を設けている。その際に疑問に思ったことや質問したいことを聞く時間もつくっている。5歳児では、活動の後には自分の思いを相手に伝えたり、友達の話の聞いたりする姿勢が身につけている。共感したり意見を伝えたりと言葉のやり取りを行っている。

・1学期では、新園児が新しい生活に慣れるよう、5歳児も1階の保育室を利用して同じ階で遊び、異年齢児での関わりをもって遊べるようにした。第3ブロック研究部会で研究保育を行い、学年を超えて好きな遊部で遊べるよう教職員が連携して保育を行った。

・2学期では、運動会ごっこやマラソン等、異年齢児と一緒に体を動かして遊べるようにした。年長児の遊びを教わりながら一緒に遊んだり、マラソンで走る姿を伝えあったりと活動の中で思いを言葉にできる環境を整えた。

・3学期では、2学期に引き続き、マラソンをしたり、園庭での遊びをしたりと、異年齢児の関わりをもって遊べる環境を整えた。仲を深めることができ、安心して園生活を送ることができている。その後、生活発表会を通して、劇遊びや楽器遊び、合奏を互いに披露し、感じたことや思ったことを伝え合う喜びを感じていた。

・自己を発揮することで良さを認められ、自信が付き、より安心して感じたことや考えていることを伝えようとする姿が見られた。思いを伝えること、友達の思いを聞くことを通して自己を発揮し、認められることで安心して過ごすことができている。

・以上の取組により、本園の保護者アンケート「子どもは友達の良いところを見つけていますか」という項目において、「そう思う」と回答した保護者は84%であり、目標を達成

することができた。また、本園の保護者アンケート「子どもは自分の思いを出していますか」という項目において、「そう思う」と回答した保護者は77%だったが、「そう思う」と「だいたいそう思う」を合わせると98%となったため、達成状況はBとする。

次年度への改善点

取組内容①

- ・毎月の降園指導と併せて、保育の中でそれぞれの発達段階に応じた指導を行い、安全に対する意識を高めていく。
- ・PTA 地域交通安全委員の方と連携しながら、交通ルールやマナーを意識していけるようにする。
- ・関係機関との連携を図りながら、安全指導を計画し、交通ルールやマナーを身につけていけるように取り組んでいく。

取組内容②

- ・各クラス、全体の場を利用して、幼児同士が互いの良さに気づき、伝えることのできるような振り返り活動を行う。
- ・今後も引き続き、幼児の実態や姿について話し合い、今後の保育の見通しや共通理解をもって、自分を表出できる保育に努める。

大阪市立日吉幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
学校園の年度目標 【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○令和7年度末の本園のアンケート調査で「遊びを通して、学びの芽が培われているか」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。 ○令和7年度末の本園のアンケート調査で「子どもは、体を動かして遊ぶことが年度当初と比べて好きになった」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。 ○令和7年度末の本園のアンケート調査で「友達と遊ぶことが楽しいと感じ、友達を大切にすることが育った」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。 ○令和7年度末の本園のアンケート調査で「子どもは、年度当初と比べて基本的な生活習慣が身についた」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】 ・就学前教育カリキュラム（知・徳・体）を活用して、発達段階に応じた教育内容をすすめる。 ・見通しをもった保育実践をする。（遊びや環境などの工夫）	B
指標 ・年5回以上、就学前教育カリキュラムを活用して園内研修会を行う（園内研究保育、実践記録の検討など） ・週2回以上、子どもの学びや保育内容、環境について話し合いを行い、保育を実践する。	
取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・一人ひとりを大切にする教育を行う。	B
指標 ・週1回、個に応じた指導や支援について話し合い、共通理解をする。 ・特別支援教育園内委員会を年に3回行い、また巡回支援も活用し保育に生かす。	
取組内容③【5 健やかな体の育成】 ・基本的な生活習慣に関心をもち、進んで行う態度をはぐくむ。	B
指標 ・発達段階や子どもの実態に応じた保健指導を毎月1回以上実施する。 ・保健指導の内容を保健だよりや掲示物で月1回以上保護者に発信する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・週案を計画する際に、就学前カリキュラムを活用し、知・徳・体がバランスよく入っているか考えながら保育内容を入れていった。	

- ・週2回都度、クラスの活動や援助方法、園庭の環境などを話し合い、それぞれのクラスの保育を充実できるように実践した。
- ・異年齢で関わって遊べるように意識して同じ時間に園庭に出て遊び、交流できるようにした。
- ・第3ブロック研究部の研究主題「遊びの育ちと小学校教育とのつながりを考える～幼児が夢中になって遊ぶ姿から～」を踏まえ、4月、5月、6月、7月、9月の実践記録を、各担任が就学前教育カリキュラムを活用して作成し、幼児の姿や育ちを読み取り討議を行った。幼児を多面的に捉え理解し、教師の学びや資質向上につながった。
- ・6月5日には教育指導員による園内研修会、6月18日には公開研究保育を行い、他園の教員から、環境構成や教育的意図をもった働きかけ、幼児の今後の育ちについて意見をいただき、学びにつながった。
- ・週1回以上「体を動かす遊びの工夫」、「保育内容や環境」について話し合い、クラスの活動や、園全体の活動ができるように、遊びや環境を工夫した。特に運動会以降は、体を動かすことが好きになり、存分に体を動かして遊ぶことを楽しむようになったことで、さらに、教員で話し合う機会を多くもつようにした。
2学期後半より、毎日の体操・マラソンをした。実態に応じた体操や季節に合った体操などの教材研究を行い、保育に取り入れて実践した。
- ・以上の取組により、本園の保護者アンケート「遊びを通して、学びの芽が培われているか」という項目において、「そう思う」と回答する保護者の割合が89%となった。また、「子どもは、体を動かして遊ぶことが年度当初と比べて好きになりましたか」という項目において、「そう思う」と回答する保護者の割合が91%となった。
このような点から達成状況をBとする。

取組内容②

- ・新年度初めに各クラスの支援を必要とする幼児について教職員全員で実態や支援方法について話し合った。
- ・日々、個々の幼児についての実態や課題、また成長していることなどを話し、教職員全員が幼児に一人一人に同じ援助ができる体制づくりに努めた。
- ・5月と2月に巡回指導、年に6回、外部の講師による特別支援園内委員会を実施し、それぞれの幼児に適した支援方法、環境づくりを具体的に学び、保育に活かした。
- ・療育施設を訪問見学したり、療育施設に園での幼児の活動の様子を見ていただき、お互いの支援方法を確認した。幼児に合った支援を共通理解することができた
- ・以上の取組により、本園の保護者アンケート「子どもは、友達と遊ぶことが楽しいと感じ、友達を大切に作る気持ちが育ちましたか」の項目において「そう思う」と回答する保護者の割合が84%となった。このような点から達成状況をBとする。

取組内容③

- ・保健指導について
 - ・年間計画を立て、それに基づいた保健指導をしてきたが、さらに、幼児の実態や行事・環境に応じて担任と相談しながら予定とは違った保健指導も入れながら下記の通り月1回以上、行った。

4月	丁寧な手洗いについて（全園児） ハンカチ・ティッシュを持ちましょう（全園児） 眼科検診について（全園児）
5月	ブクブクうがいとガラガラうがいについて（全園児） 水分補給について（5歳児） トイレのマナーについて（3歳児） 耳鼻科・内科・歯科検診について（全園児）

6月	和式トイレを使えるようになるろう（全園児） 歯ブラシの扱いについて（3歳児） 丁寧な歯磨きについて（全園児） プライベートパーツについて（5歳児）
7月	夏の元気な過ごし方（全園児） 朝ご飯を食べよう（全園児） 睡眠を十分にとろう（全園児）
8. 9月	7月の保健指導のおさらい（確認）（全園児）
10月	目を大切にしよう（全園児）
11月	食事のマナーについて（3,4歳児） よく噛んで食べよう（全園児） いろいろな食べ物を食べよう（全園児）
12月	衣服の調節をしよう（全園児）
1月	風邪予防「丁寧な手洗い・うがい」
2月	食育：3色栄養、いろいろな食べ物を食べよう（全園児） 食べ物の行方・よいうんち（5歳児） 良い姿勢について（4歳児）
3月	良い姿勢について（3歳児） 予定 自分の成長について（全園児） 予定

・保健指導の時だけではなく、生活する中でその都度の声かけや担任や周りの教職員と全員で指導を行うことで基本的な生活習慣への意識向上につながっている。

また、保健室周辺に指導に使用した掲示物を掲示しておくことで、その時・その時期だけでなく継続して幼児の興味・関心が続き、意識が高まることにつながった。

・保護者への発信

・保健指導の内容を月1回、保健だよりやHPに載せて保護者への発信を行った。

・長期休業中には、「けんこうカレンダー」を配布して、家庭でも健康的な生活に取り組むことで保護者と子どもの意識継続につながった。

・以上の取組により「そう思う」は77%であったが、「そう思う」と「だいたいそう思う」を合わせると96%となったため、達成状況はBとする。

次年度への改善点

取組内容①

- ・今後も就学前教育カリキュラムを活用し、保育に生かして取り組んでいく。
- ・幼児の実態や保育内容、環境などを教職員間で話し合い、充実した保育を実践する。

取組内容②

- ・今後も特別支援園内委員会を行い、日々教職員間で気付いたことを話し合い、子どもの実態や支援の方向性などを共通理解していく。
- ・巡回支援の利用、療育機関との連携等で、専門的な視点から学ぶ機会をもつ。

取組内容③

- ・保健指導内容を降園時にも掲示し、家庭啓発する。
- ・今後も指導教材を保健室前に掲示することで継続した子どもへの意識づけを図る。
- ・引き続き、保健指導の内容を家庭でも活用してもらえよう、保健だより・HPに載せて家庭啓発を行う。

大阪市立日吉幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
学校園の年度目標 【学びを支える教育環境の充実】 ○令和7年度末の本園のアンケート調査で「自分の住んでいる地域を知ったり、地域の行事に参加したりした」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。 ○令和7年度末の本園のアンケート調査で「幼稚園は、家庭教育と子育てや、幼稚園教育の発信を行っていた」を、「そう思う」と回答する保護者の割合を、80%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【9家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ・家庭・地域・異校種間・関係諸機関との交流する経験を通して、地域や周りの人に親しむようにする。	B
指標 ・地域とかかわる活動や交流を年間10回以上取り入れる。 ・月1回の保育室降園でクラスの保育を発信する。 ・学期に1回以上、園内外の掲示などで幼稚園の教育や活動について発信をする。 ・HPの作成をし、週2回以上発信する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取り組み内容① ・1学期にはアドプドライバーに2回散歩に行き、大きなこいのぼりや金魚を見せていただいたり、ヤマモモや笹をいただいたりした。定期的に掲示板にクラスでつくった壁面を貼らせていただき日吉幼稚園を地域に知ってもらえるようにした。 ・6月に5歳児が水門見学に行った。水門がどのように動いているのか、川の様子を見たり、話してもらったりし、地域の川や水門の仕組みに興味をもつようになった。 ・10月の運動会では未就園児を招待し、かけっこの時に、4歳児がゴールで待ち、お土産を渡して関わった。 ・11月に西区民祭りで、5歳児が西区民センターで歌を歌った。地域の人に聴いてもらい、自信につながった。歌った帰りに区民祭りで楽しむ姿が見られた。 ・11月に堀江中学校の職場体験で中学生12名が来た。中学生がダンスやコントを見せてくれたりピアノを弾いてくれたり、優しく遊んでくれたりしたことで、憧れの気持ちが育った。 ・日吉小学校とは、年間を通して活動や交流を行った。 5月： 芝生で遊んだり、校庭を走ったりして楽しんだ。小学生が休憩時間に来てくれて交流することができ、憧れの気持ちがもてた。 7月： ミニコンサートに行かせていただき、小学生のきれいな声を聴かせていただいた。「小学生になったら合唱部に入りたい」と言って、憧れの気持ちが高まっていた。 9月： 合同避難訓練を行った。スムーズに行くように事前に打ち合わせをしていただいたり、避難場所を小学生に誘導してもらったりした。

1 2月：1年生とたこあげ交流を行った。広い校庭を力いっぱい走る開放感と1年生の優しさにふれた。特に、幼稚園では最年長として行動している5歳児にとって、1年生が優しく関わってくれたことがうれしいようだ。

1月：校長先生が、5歳児と保護者に「楽しい小学校生活に向けて」の話をしてくださった。事前に、校長先生に5歳児の質問を知らせていたことで、質問に合わせて小学校の様子を写真で撮り、わかりやすく知らせてくださった。5歳児は小学校への興味とともに、就学に対する安心感をもった。

また、合唱団の6年生が休憩時間に幼稚園に来て、歌を聞かせてくれた。歌声の美しさに引き込まれただけでなく、就学したときには卒業していない6年生とのわずかな関わりをもてた。

2月：5歳児が1年生の小学校の授業の様子や給食の準備などを見学した。歌を聞かせてくれたり、折り紙のペンダントをプレゼントしてもらったりしたことで親しみがわき、安心感とともに就学への期待が高まった。

- ・今年2回、西区種花事業に参加した。西区緑花会の方の指導の下、6月は5歳児がマリーゴールドを、10月は3、4歳児がキンセンカを植えた。植え替え、ポットへの植え替と2回ずつ、緑花会の方と交流し、一緒に植えたことで、植物を大事に世話をする気持ちだけでなく、親しみをもって関わる事ができた。
- ・くまクラブでは、未就園児と一緒に体操をしたり、遊んだりして、小さい子どもに関わった。相手に合わせて優しく関わることで、思いやりの気持ちが育った。日吉小学校の絵本の会「おひさん」が年に2回来ていただいているが、そのうちの1回をくまクラブで一緒に見たことで、未就園児の保護者の方にも地域のつながりを知っていただいた。運動会や作品展にも招待したりし、幼稚園に来ていただく機会を増やして、楽しんでもらえるようにした。2月には3歳児が生活発表会で披露した歌と合奏を見せて、一緒に楽器で遊んで交流をもった。見本を見せたり、優しく関わった
- ・毎日HPを発信し、幼稚園での様子を知らせている。月に1回、保育室で担任から、また、学期終わりには、遊戯室にて、子どもたちの活動の写真と幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿の掲示をし、保護者に知らせた。また、11月には、作品展に向けてつくったりかいたりして取り組んでいる様子の写真と、幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿の掲示物を保護者に知らせたことで、つくっている過程や学びを理解してもらえた。
- ・1学期、2学期終業式では、スライドで、幼児の姿から具体的に教育内容、ねらい、狙いに基づいた教師の援助、そして学期での幼児の育ちを知らせた。
- ・地域の夏祭りやもちつきのポスターを園内に貼ったり、夏休みのたよりに地域のイベントを載せて知らせたりし、地域の行事を広めた。
- ・日吉会館の子育てサークルを訪問した。9月に5歳児が行き、未就園児に歌を歌って聴かせたり、遊んだりして交流をし、小さい子どもに優しく接していた。地域の方に幼稚園の活動を知ってもらう機会にもなった。3月には3、4歳児が行く予定である。
- ・日吉会館や高台会館に、未就園児のポスターを貼っていただいたり、図書館に「ようちえんだいすき」を置いてもらったりした。8月には中央図書館に幼稚園のポスターの掲示や西区役所のギャラリーに子どもがつくった物を展示したりして、幼稚園を知ってもらうようにした。
- ・3学期には西区役所地域支援課「にっしーパトロール隊」から、不審者対策を具体的に指導していただいた。区役所の「にっしーパトロール隊」の日常の仕事、役割についても知り、区役所の方も自分たちの生活を守ってくれていることを知ることができた。
- ・以上の取組により、保護者アンケート「自分の住んでいる地域を知ったり、地域の行事に参加したりした」という項目において、「そう思う」は67%であったが、「そう思う」

と「だいたいそう思う」を合わせると、93%となり、概ね肯定的回答だった。
また、保護者アンケート「幼稚園は、家庭教育と子育てや、幼稚園教育の発信を行っている」という項目において、「そう思う」は96%となり80%以上になり達成された。
このような点から達成状況はBとする。

次年度への改善点

- 引き続きアドプトリバーの作品展示をしたり、「ようちえんだいすき」やポスターを地域の会館や図書館、子育てサロンなど様々な場所に置かせていただいたりし、幼稚園のことをもっと知ってもらえるようにする。
- HPを週3回程度発信し、未就園児の保護者の方や地域の方に、幼稚園の教育や活動について知らせていく。
- 未就園児活動（くまクラブ）を毎月2回程行い、在園児と交流したり遊んだりして幼稚園に親しんでもらう。時には園行事も組み込むことで、園児と一緒に活動する機会を増やしていく。
- 小学校との交流を続け、小学校への憧れの気持ちがもてるようにする。